

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3970101287
法人名	医療法人 高潮会
事業所名	うしおえ
訪問調査日	平成 19 年 8 月 30 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 14 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3970101287
法人名	医療法人 高潮会
事業所名	グループホーム うしおえ
所在地 (電話番号)	高知市梅ノ辻7番2号 (電話)088-833-1115

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	28人	常勤 5人, 非常勤 23人, 常勤換算	14.9人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,555 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	10名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	潮江高橋病院・森澤歯科医院	2
---------	---------------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は、長年、医療・福祉分野で地域に貢献しており、地域住民の信頼は厚い。ホームは、高知市中心部の住宅地にありながら、騒音も感じず周辺の民家との調和もとれている。ホーム内は清潔で、ゆったりした時間が流れ、そのことは利用者の表情にも表れている。家庭的で馴染みのある環境、親しみのある人間関係の中で安心して暮らしている様子が窺われる。全職員とも明るく、優しくそして穏やかさを感じられ、今後も「ゆっくり・ゆったり」の時間の流れの中でくつろぎ、安心してその人らしい暮らしが継続でき、さらに地域に密着したグループホームとして発展されることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題に対しては、管理者を中心に全職員で課題内容について話し合い、チェックをしたうえで改善シートを作成している。実践に繋がるケアを提供出来ている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、評価の意義を十分理解しており、前回の改善課題も考慮しながら、新たな気づき、見出したこと等を意見として出し合い全員で取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 最近の運営推進会議では、ホームで毎週行っている「いきいき百歳体操」について話し合っている。住民の参加人数が増えたことで、ホームのスペースが手狭になり、希望者には参加してもらうことを前提に開催頻度のことも含めて検討するなど、地域とのつながりを大切にすることを考慮しながら取り組んでいる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会では余り意見は出ないが、定期的に送付している「便り」に近況報告を載せている。訪問しやすい雰囲気、話しやすい関係はできているが、現時点では意見、苦情はない。今後は、些細な相談や日常の会話の中から、家族の秘められた思いなどをキャッチし、ホーム側から家族へ働きかけを積極的に行い、これによりきめ細かい対応、さらにはそれを通じて家族の意見を運営に反映させる努力を期待する。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会への入会はもとより、町内会定期総会への出席、鏡川一斉清掃、不燃物当番などを行っている。利用者も、散歩等の時の挨拶から近隣住民の方と顔見知りになり、最近では、ホームで行っている「いきいき百歳体操」へ参加している住民の方などからも利用者へ声を掛けてもらっている。日常生活において地域との連携はとれている。今後も「ホームは地域のなかの存在」であることを認識しつつ、地域との連携の深まり、地域住民との交流の深まりの継続を期待する。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 〔開所時に、職員が十分話し合い決めた事業所独自の理念がある。〕 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容であ 〔理念を基に基本方針を立てている。「入居者個人の生活を尊重し、かつ利用者が、地域の方々や自然・環境とも触れあいながら地域の中で暮らし続けることを支える」という自覚と役割を、より明確にした内容になっている。〕		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 〔事業所内の目に触れやすい場所に掲示し、月1回の職員会では、理念についての理解を深め実践との共有に努めている。それに基づくケアの向上と支援が行われている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 〔理念のなかにある「いつも穏やかに暮らす」という言葉が、ホームの中で実践されている。特にミーティングにおいては、理念とのずれがないか、具体的なケアについて話し合っている。〕		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 〔町内会に入会し、町内会の定期総会にも参加している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 〔鏡川一斉清掃、不燃物当番や地域のお祭り、町内会の行事などに積極的に参加して地域との交流に努めている。〕		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 〔職員は、評価の意義について理解できている。評価内容を持って、新たな気づきがあれば追加するなどサービスの質の向上に努めている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 〔経営者、管理者、職員は、前回の評価で見出された課題への改善点を改善シートにまとめ、課題内容を検討し実践している。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 〔2か月に1回開催し議事録もある。事業内容、評価内容など報告し、意見をもらうようにしている。事業所で行っている「いきいき百歳体操」の参加住民が増えたことで、今後の対応について意見が出たりしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 〔 〕		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 〔運営推進会議以外では、行政との連携は特に行われいない。〕	○	今後も事業所側から行政との関係づくりを積極的に行い、協働関係を築き、行政との関わりを更に強くしていくことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 〔家族が訪問しやすく、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 〔年3回の「便り」と、家族会の時を利用して近況報告などを行っている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 〔家族に対しては、その都度、来訪してもらったり、遠方、県外に在住の方には電話連絡をしている。心身の変化には特に留意している様子が窺われる。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 〔金銭出納帳を作成しており、定期的に報告し訪問された家族にはサインをもらっている。〕		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 〔現在まで特に苦情はないが、個人的な相談はまれにある。必要に応じて、連絡ノート、口頭で伝達し事実の把握と問題の共有に努めている。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 〔開所以来、管理者の退職以外は職員の異動は殆どない。馴染みの関係が構築されている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 〔 〕		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 〔研修計画を立て、ケアの向上を目指す法人内外の研修に全職員が参加できる態勢をとっている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 〔研修後は、研修の資料と復命書で、その内容について、全職員が共有できるシステムをとっている。〕		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 〔交流・情報交換等を通じて、職員の資質の向上を目指している。〕 <input type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 〔外部研修へ参加した際には、情報や意見交換を行っているが、地域の同業者との交流は少ない。〕	<input type="radio"/>	今後は、他のグループホームとの交流を深めることにより、他の事業所の方の意見や経験を学び、さらなる質の向上・サービスの提供を期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 〔管理者とユニットのリーダーが面接を行っている。来所が困難な方には、管理者が外向き面接を行う場合もある。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 〔「できること」はしていただき、「できそうかな」と思われることには、見守りそして手をさしのべるという気持ちで接しており、和やかな雰囲気が見られる。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 〔長年培ってきた生活の技、調理の仕方、掃除の仕方など多くの面で人生の先輩として教わる場面が多い。職員は、こうした場面づくりにも工夫している。〕		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 〔日々の係わりの中で積極的に声をかけたり、表情などから希望・意向の把握に努めている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 〔家族からの情報が少ない方、利用者の意向がつかめない方がおられるが、職員は利用者の行動に寄り添い、訴えや思いに耳を傾け、利用者にとって何が最良かを探る努力を根気強く続けている。〕		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 〔担当制を取っているが、基本的には、職員全員が介護計画作成に関わっている。職員会、カンファレンス等での意見交換が活発である。〕		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 〔基本的に、2～3ヵ月ごとに見直しをしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 〔利用者の状態の変化や家族からの要望があった場合は、その都度検討・見直しを行い家族にも報告し了解を得ている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 〔利用者の状態に応じた内容、期間が設定されている。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 [医療連携制度の活用と、母体法人の病院が近くにあり、利用者、家族とも安心して生活ができ、また状況の変化に対応し支援をしている。] <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 [入居時に、本人と家族には、重度化、終末期のケアについて十分話し合われている。] <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 []		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができている。 [入居前からの「かかりつけ医」に受診している利用者もあり、柔軟に対応している。] <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 [] <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができている。 [受診結果については、職員間で把握することは当然で、利用者、家族が中心であるという考え方が基本となっており、情報の共有は出来ている。]		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 [] <input type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるよう取り組んでいる。 [現段階では、ホームでの看取りは考えていない。]	○	終末期に係る対応については、状態の変化に即して本人や家族、医師その他関係者が十分に意志疎通を計り、最良の終末を迎えることができるよう取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 [職員は、利用者の経歴や経験などを把握しながら、一人ひとりに見合った「喜びのある日々」を過ごしていただけるように支援をしている。] <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 [過去の経験を生かし、魚のさばき、洗濯物のたたみ、掃除等々、利用者の気分や活力を高め、発揮できる場面作りをしている。] <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 [職員は、利用者の特徴や得意分野の把握は出来ており、利用者と話しながら支援をしている。]		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 [近くのコンビニに行く回数が多い。また近くには衣料品店もあり、ユニットごとに出かけている。店の方とも馴染みの関係が築かれ、会話も自然にできている。] <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的にやっている。 [近辺への外出は、シルバーカー、歩行器などを使用する方もいる。遠出の時は事業所の車を利用して戸外での自然との触れあい・気分転換など心がけている。] <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 [散歩、外出、買い物など一人ひとりの希望に沿える支援をしている。]		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 [] <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 [職員は、利用者の外出の習慣などを把握しており、利用者の状況に応じて1対1での見守りをする場合もある。] <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 [散歩の時など挨拶をかかさず、日頃から地域の方との交流を深めるようにしている。最近では、「いきいき百歳体操」へ近隣住民の参加が多くなり、その場面を通じて顔見知りの方も多くなった。見守り、声かけ、連絡をしてもらえる関係ができています。]		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 〔消防署の協力を得て、年2回避難、消火訓練を行っている。地域住民の参加は、推進会議や町内会定例総会で協力の依頼をしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 〔ホーム内では、2か月に1回避難訓練をしている。消火器などの設置、点検は問題はない。非常用食料などは、歩いてすぐの場所にある母体法人の施設に備蓄している。〕		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 〔チェック表を作成し、把握をしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 〔利用者の嗜好を可能な限り取り入れ、栄養バランスに配慮しながら献立表を作成している。〕 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 〔 〕	○	一人ひとりの栄養摂取量や水分量は把握しており、特に水分摂取の少ない利用者への支援の苦勞が窺われる。献立表については、カロリー面等、母体法人の栄養士に専門的な観点からチェックをしてもらうよう望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 〔事業所内にはベンチ、テーブル、畳みコーナーなどがあり、馴染みの家具も設置されている。玄関前にもベンチを置くなど、利用者にとって居心地の良い共用空間となるよう工夫されている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気壊していない。 〔利用者と一緒に作った作品の飾り付けも、家庭的な雰囲気を醸しだしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 〔観葉植物、季節の花などで、四季の味わいや季節感を出すなど、居心地良く過ごせる工夫・演出が見られる。〕		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 〔居室には、使い慣れたタンスや家具、衣装ケースなど利用者には馴染みの物で、また配置にも配慮されている。配偶者との写真、孫、ひ孫の写真など装飾し温かみが窺われる。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 〔職員は、一人ひとりに配慮した居心地良い居室になるよう努力をしている。〕		